総会

●町田市建設業協会
事業計画など全会一致

町田市建設業協会（佐々木信平会長）は15日、町田市内で第13回定時総会を開き2023年度の事業報告と収支決算、24年度の事業計画と収支予算を全会一致で承認した。

佐々木会長＝写真＝はあいさつで、「公共工事の適切な金額や工期設定、安定的な発注がなければ、若者が地元中小建設業に就職しようとは思わない」と指摘。また「5年ぶりに開催する水防訓練をはじめ、地域の防災力向上のために尽力する」と意欲を述べた。

顧問で町田市議会議員の佐藤伸一郎氏は「工事単価を見直し、地元建設業が元気になることが重要」と述べた。

来賓では榎本悦次郎市長が「鶴川駅前開発や新たな学校づくりなどの公共工事で、皆さんへ今後も協力を願いたい」と話した。全国中小建設業協会の土志田領司会長は「設計労務単価は上がっているが末端までいきわたっておらず、このままでは若者が就職するのに魅力的だと思えなくなるのではないか」と訴えた。

●府中市管工事協会
災害発生に備え日々連携強化

府中市管工事協会（田村正明会長）は14日、府中市内で第49回通常総会を開催した。会員26社、賛助会員11社が参加し、2023年度の事業経過報告や24年度予算などの議案を承認した。

田村会長＝写真＝は、会員数27社のうち26社が参加し、「高い出席率となったことに感謝した後、「能登半島地震のような災害がいつ東京で起こるか分からない。しかし、いつ災害が発生しても当協会は瞬時に対応ができるよう日々連携を強めていく」と災害対策について言及した。また、「協会活動を十分に行い、存在価値を各所にアピールすることで、待遇改善や人手不足の解消を図っていく」と力を込めた。

24年度は、管工事資材の共同購入の仲介や技術向上に向けた研修会、各講習会の開催などを計画している。総会後には懇親会を開き、会員らの絆を深めた。

●日本ビルヂング協会連合会
オフィスビルの重要性を強調

日本ビルヂング協会連合会（木村憲司会長）は、兵庫県内で2024年度総会を開き、2025年度税制改正・予算要望などを盛り込んだ24年度事業計画を承認した。

木村会長は、「働き方の多様化が進む一方、オフィスで執務することの意義やメリットが再認識されており、オフィスビルが経済活動を支える重要な経済インフラとしてこれからも役割を担うことに変わりはない」と、オフィスビルの重要性を強調し、「全国の地方協会や会員と連携し、ビル業界を取り巻く課題に対応する」と方向性を示した。

また、23年4月に組織統合した日本ビルヂング経営センターについては、「教育研修・人材育成事業の更なる推進を目指す」と謳った。

●日本ツーバイフォー建築協会
オープン化50周年で各種行事

日本ツーバイフォー建築協会（池田明成会長）は13日、都内で全社員総会を開いた。講演では、技術の研究開発や技能者の育成・確保などの課題に取り組むことを決めた他、工法オープン化から50周年を迎え、各種の記念行事を行うことを確認した。

池田会長＝写真＝は「2023年度のツーバイフォー住宅の着工数は9、1万戸で、前年度と比べほぼ横ばいで推移した。全住宅におけるシェアも増加しており、持ち家のシェアは20年前と比較して約2倍の12、9%まで伸びている。性能面や生産性・施工性の高さがユーザーから支持されている」と述べ、工法の優位性を強調した。また、「今後は施設系建築への普及拡大、中高層・大規模建築への対応を進めていく。さらに、脱炭素社会の実現にも貢献したい」と語った。

総会後の懇親会では国土交通省の石坂聡住宅局長が登壇し、国土交通行政への協力に対し謝辞を述べた。

安全大会

●品川建設防災協議会
無事故・無災害へ協力求める

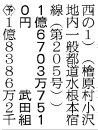
品川建設防災協議会（渡辺敏会長）は、第9回防災安全大会を開いた。会員など約100人が参加し、安全への意識を高めた。

渡辺会長＝写真＝は、近年の台風や能登半島地震といった自然災害の発生状況に触れ、「建設業は復旧復興の最前線でインフラ整備に当たっている。地域の安全・安心を支える地域の守り手として、社会に欠かすことのできない存在」と、その役割の重要性を述べた。

その上で、「安全な職場環境の形成はますます重要なものとなっている。この大会をきっかけに、無事故・無災害をお願いしたい」と協力を求めた。

続く安全講話では、品川区の長尾樹偉施設整備課長、大友恵介公園課長らが現場の安全管理について それぞれ解説した。

●丸藤シートパイル
1年間の無事故・無災害誓う



丸藤シートパイル（中央区）は、2024年度関東地区合同安全衛生大会を開き、1年間の無事故・無災害を誓った。

羽生成夫社長＝写真＝は、昨年発生した労働災害の状況を振り返り、「ヒューマンエラーに起因するものが大半だと考えている。安全設備の投資を積極化するが、各人の安全意識が一番大切となる。近道をせずに、地道にやるべきことを行っていこう」と呼び掛けた。安全講習会や職長会も積極的に実施する考えを示し、「災害は他人事ではない。常に自分たちに置き換えながら、社員をひとつも指導の徹底をお願いしたい」と、協力を求めた。

来賓として中央労働基準監督署の大桑徹也安全衛生課長が表彰いさつを述べた他、鹿島（港区）の関係者らも登壇した。また、安全成績が特に優秀だった現場の責任者らを表彰した。

結果

多摩地区の結果・予告

都道府県は多摩地区事務所分のみ掲載

事後公表メンバーは電子版に掲載しています

●東京都建設局第一建設
▽中央街路整備工事（6月20日）
▽電線共同溝及び街路照明補修工事（6月20日）
▽中央区日本橋本石町四丁目地内ほか（中央区晴海五丁目地内）
▽新宿駅西口駅前広場下水道施設等基本設計（6月20日）
▽水道引込補修設計（6月20日）
▽神田一丁目地内ほか（千代田区内神田一丁目地内）
▽復建技術コンサルタント（6月20日）
▽六郷地区仮設住宅7、8号棟上屋解体工事（6月20日）
▽東京舞台芸術活動振興センター（6）スタジオ床その他修繕工事（中央区日本橋箱崎町18番14号）
▽東京都都市整備局第二市街地整備課
▽東京都都市整備局第二市街地整備課
▽東京都都市整備局第一